別紙4

# 児童相談所援助指針票

相談所名　　作成者名

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| フリカナ<br>子ども氏名 | | 性別 | 男<br>女 | 生年月日 | 年　月　日<br>（　　歳） |
| 保護者氏名 | | 続柄 | | 作成年月日 | 年　月　日 |
| 主　訴 | | | | | |

| | |
|---|---|
| 援助の選択及びその理由 | |
| 本人の意向 | |
| 保護者の意向 | |
| 市町村・学校・保育所・職場などの意見 | |
| 児童福祉審議会の意見照会の有無（有　無） | |
| 児童福祉施設・里親などの意見 | |

【援助方針】

第○回　援助指針の作成及び評価　　次期検討時期：　年　月

## 子ども本人

【長期目標】

| | 援助上の課題 | 援助目標 | 援助内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標（優先的重点的課題）】 | | | | 年　月　日 |
| | | | | 年　月　日 |
| | | | | 年　月　日 |
| | | | | 年　月　日 |

## 家庭（養育者・家族）

【長期目標】

| | 援助上の課題 | 援助目標 | 援助内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標（優先的重点的課題）】 | | | | 年　月　日 |
| | | | | 年　月　日 |
| | | | | 年　月　日 |

## 地域（保育所・学校等）

【長期目標】

| | 援助上の課題 | 援助目標 | 援助内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標】 | | | | 年　月　日 |
| | | | | 年　月　日 |

## 総合

【長期目標】

| | 援助上の課題 | 援助目標 | 援助内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標】 | | | | 年　月　日 |
| | | | | 年　月　日 |

【特記事項】

# 児童相談所援助指針票（記入例）

相談所名　△△児童相談所　　作成者名

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| フリカナ<br>子ども氏名 | ミライ　コウタ<br>未　来　幸　太 | 性別 | ○男<br>女 | 生年月日 | ○年　○月　○日　（11歳） |
| 保護者氏名 | ミライ　リョウ<br>未　来　良 | 続柄 | 実　父 | 作成年月日 | ×年　×月　×日 |
| 主　訴 | 被虐待経験によるトラウマ・行動上の問題 | | | | |
| 援助の選択及びその理由 | 実母による虐待が継続的に続いており、行動上の問題が見られること。家庭内におけるキーパーソンが存在せず、在宅のまま支援していくことは、問題を深める危険性が高いこと、分離した方が効果が期待できることなどに鑑み、施設による支援を選択した。 | | | | |
| 本人の意向 | 母親との一緒の生活はイヤだ、家族全員で楽しく暮らしたい | | | | |
| 保護者の意向 | 母親との生活では双方にストレスになるため、単身赴任中は施設での生活をお願いしたい。 | | | | |
| 市町村・学校・保育所・職場などの意見 | 集団生活では目立たず存在感があまりない。復帰が可能となれば十分な受け入れ態勢で臨む。 | | | | |
| 児童福祉審議会の意見照会の有無（有　無） | なし | | | | |
| 児童福祉施設・里親などの意見 | 母親からの虐待により自己否定感が強い。人との信頼関係の構築が優先される | | | | |

【援助方針】本児の行動上の問題の改善及びトラウマからの回復を図り、また、虐待の発生や悪化に至った母親の心理状態の理解を促進する。父親の養育参加や母親への心理的共感の促進により母親の養育ストレスを軽減しつつ、子どもの年齢に応じた養育方法を習得できるよう援助し、その上で家族の再統合の可能性を検討する。

第○回　援助指針の作成及び評価　　次期検討時期：　年　月

## 子ども本人

【長期目標】　盗みなどの問題性の改善及びトラウマからの回復

| | 援助上の課題 | 援助目標 | 援助内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標（優先的重点的課題）】 | 被虐待体験やいじめられ体験により、人間に対する不信感や恐怖感が強い。 | 施設生活への適応を図り、人間に対する信頼感の獲得。虐待に由来する不信感や恐怖感の軽減。 | 安心感・安全感を持てる生活ができるよう、職員の目の届くところでの生活と生活場面面接や週1回の個人心理療法を行う | 施設生活には適応できはじめているものの、人に対する不信感は未だに強い。心理療法では、虐待体験の直面化に抵抗あり。<br>×年　×月　×日 |
| | 自己イメージが低く、コミュニケーションがうまくとれず、対人ストレスが蓄積すると、行動上の問題を起こす | 対人コミュニケーション機能を高めるため、人に対して素直に自己主張できる機会を段階的に与える。対人関係で問題が発生した折を捉え、認知や感情などを認識できるようになる。 | 対人関係での問題発生時の生活場面面接。毎日の日記を活用した適切なコミュニケーションの援助。集団場面での自己表現のサポート。 | 最初は日記の内容も形式的・表面的だったが、最近は気持ちを表現するようになってきた。問題の発生時の振り返りは不十分。<br>×年　×月　×日 |
| | 自分がどのような状況になると、行動上の問題が発生するのか、その力動について認識できていない | 自分の行動上の問題の発生に至る認知や感情についての理解を深める。 | 施設内で行った行動上の問題の発生場面状況について本児とともに振り返る。 | 2回の行動上の問題の発生場面状況について検討したが、いくつか共通点は見つけたが、その力動については十分な理解には至っていない。<br>×年　×月　×日 |
| | 野球などスポーツが好きであるが、現在は得意なスポーツ活動ができていない | スポーツ活動への参加 | 地域の少年野球チームに所属し、週末に野球をやる | 他児に対して遠慮がちではあるが、楽しそうにプレーしている。意欲的に参加している。<br>×年　×月　×日 |

## 養育（養育者・家族）

【長期目標】　母親が虐待に至った心理的経過を理解する。父親が母親への心理的サポーターとしての役割を自覚し、役割を果たす。母親と本児との関係性の改善を図ると共に、父親、母親との協働による養育機能の再生・強化を図る。

| | 援助上の課題 | 援助目標 | 援助内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標（優先的重点的課題）】 | 母親は、虐待は認めているものの、本児の態度を問題視しており、虐待の認識が不十分で、治療意欲が乏しい | 自分がした行為は虐待行為であるという虐待への認識を促進し、治療意欲を高める。また、虐待に至った本児に対する認知や感情を理解する。 | 個人面接の実施（月2回程度） | 虐待であることと認識し、治療意欲が出てきている。<br>×年　×月　×日 |
| | 母親は、本児を嫌いではないが、本児との生活や行動上の問題がストレスになっており、対応として虐待をしてしまう。 | 抑制技術の獲得に結びつけるため、虐待の発生に至る心理的経過について理解する。 | 個人面接の実施（月2回程度） | 心理的経過の理解は深まってきたが、抑制技術の獲得についてはまだまだ不十分<br>×年　×月　×日 |
| | 思春期の子どもへの養育技術（ペアレンティング）が身に付いていない | 本児に対する養育技術を獲得する | ペアレンティング教室への参加（隔週） | すべての課程を終了していないが、前向きに取り組んでいる。<br>×年　×月　×日 |

## 地域（保育所・学校等）

【長期目標】　定期的かつ必要に応じて支援できるネットワークの形成（学校、教育委員会、主任児童委員、訪問支援員、警察、民間団体、活動サークルなど）

| | 援助上の課題 | 援助目標 | 援助内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標】 | 近所とのつきあいもあまりなく、社会的に孤立ぎみであり、地域からの支援を受けていない | チームによる定期的な訪問活動などを実施し、地域との関係を深める | ネットワーク会議を開催し、育児家庭訪問事業の活用により、支援活動を行う。 | 保健師が何回か訪問し、料理サークルに結びつける。<br>×年　×月　×日 |
| | | | | 年　月　日 |

## 総合

【長期目標】　地域からのフォローアップが得られる体制のもとでの家族再統合もしくは家族機能の改善

| | 援助上の課題 | 援助目標 | 援助内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標】 | 本児は施設入所について納得しておらず、施設での不適応が懸念される | 職員や他の子どもとの関係を構築し、施設生活へのスムーズな適応を図る | 職員が本児の気持ちを受容しつつ、スポーツなど能力を発揮する場面を用意し、周囲から評価され仲間として受け入れられるような機会をつくる | 入所当初は「様子見」の状態であったが、次第に他の子とも関係を持ち始め、施設生活に適応し始めている。<br>×年　×月　×日 |
| | 本児が母親を嫌っているなど、本児と母親との関係が悪い。 | 段階的な交流方法を考え、本児と母親との関係性の回復や再構築を図る。 | 父親と本児との通信など、父親を介在させ、本児と母親との交流の契機を図る。その都度、母親に対する認知や感情を話し合う。 | 父親の介在により、母子関係の調整は少しずつではあるが図られている。<br>×年　×月　×日 |

【特記事項】　母親との通信・面会については、現在のところ制限中

別紙 6

# 児童福祉施設におけるケース概要票

子ども氏名　　生年月日　　入所年月日
保護者氏名　　住所
主訴　　措置児童相談所　　作成年月日　　作成者

| 年齢 | 子ども自身 | 家庭生活（家族関係） | 地域社会（学校など） | 既往歴・特記事項 | 家族関係 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | <ジェノグラム（家系図）> |
| | | | | | 地域社会（社会資源） |
| | | | | | |

子どもの心身状況など　（心身の健康状況、自己、関係性、コミュニケーション、情緒的発達、認知的発達、問題解決能力、日常生活動作能力、性格）

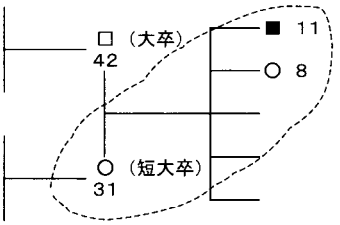
総合所見

# 児童福祉施設におけるケース概要票（記入例）

子ども氏名　未来　幸太　　生年月日　　入所年月日
保護者氏名　未来　　良　　住所　　S市
主訴　虐待　　措置児童相談所　　△△児童相談所　　作成年月日　　作成者

| 年齢 | 子ども自身 | 家庭生活（家族関係） | 地域社会（学校など） | 既往歴・特記事項 |
|---|---|---|---|---|
| | | 子どもができ結婚 | 新興住宅地域<br>人間関係希薄 | |
| | 望まない妊娠 | | | |
| 0歳 | 第1子長男 | | | |
| | | | | アレルギー<br>小児病院への通院 |
| 1歳 | 保育所入所 | 母親職場復帰 | 保育所の指示で毎日弁当を持参<br>母親との関係良好 | 食事指導 |
| 2歳 | なかなか他児と遊べず | | | |
| 3歳 | 退行現象が見られる（食事を食べない） | 妹が生まれる<br>母親による虐待が始まる | 保育所に相談 | |
| 4歳 | 保育所退所 | 母親職場退職 | | |
| 5歳 | | | | |
| 6歳 | | | | |
| | 小学校入学<br>楽しんで登校 | | ベテランの女性教師が担当になり本児への配慮あり | |
| 7歳 | 少年野球チームに入る | | | |
| | | 配置換えにより父親の帰りが遅くなる | | |
| 8歳 | 持ち出しが始まる | 母親は食事を抜いたり、玄関で深夜まで立たされたりした | | |
| 9歳 | | | | |
| | 学校でいじめを受ける | | | |
| 10歳 | 家出が始まる | | | |
| 11歳 | 家出がくりかえさせれるようになり、万引きをして警察に補導される（保護者引取） | 父親が単身赴任、この頃から母親の虐待がひどくなる | 本児の顔になどに痣などがあると学校より通告があり一時保護 | |
| | 施設入所 | | | |
| 12歳 | | | | |
| 13歳 | | | | |
| 14歳 | | | | |
| 15歳 | | | | |
| 16歳 | | | | |
| 17歳 | | | | |
| 18歳 | | | | |

## 家族関係




父ー自営業の両親の一人っ子であり、結婚前の31歳まで実家で生活していた。社会経験は乏しく、仕事が生き甲斐だという。そのため育児や家事には非協力的。しかし子どもは好きで本児ともよく遊び関係は良好　現在の職業は事務職。子どもの問題については解決したいと考えているものの、現在単身赴任中で実行できない状況。健康面は良好

母ー会社員の両親の一人娘であり、父とは20歳で結婚。結婚後は若いながらも家庭を切り盛りしていたが、子育てについての技術が身に付いておらず、相談する人がいないこともあり、ストレスが溜まったという。そのため子どもの問題に対しては、力によって対応してしまうという。夫婦でのコミュニケーションはあまりない。健康面は身体的には良好であるが精神的にはストレスフルな状態

妹ー現在小学校3年生。両親には可愛がられていた。学校生活にも適応しており、現在は問題は見られない。本児とは親和的である。但し母親に対しては気を使って生活している。

経済状況：年収500万程度　借金はなし
住環境：広さはあるものの清潔感に欠ける
家族の凝集性：まとまりに欠けている面あり
リーダーシップ：父親にあるものの母親には弱い
社会参加度：孤立気味
出自家族との関係性：疎遠になっている
本児の問題改善に関する希望
　実父：望んでおり、協力的
　実母：虐待は認めているものの治療意欲はあまりない

## 地域社会（社会資源）

最近住宅地として急激な発展を見せた地域であり、従来からの住民と転入者との間で問題が生じている。地域で活用できる子育て関係の資源は多いとはいえない。転入者に対する受け入れはあまり好意的ではない。日頃からの交流は乏しく共に助け合える関係はできていない。この家族に対して支援可能な近隣住民はいない状況。
但し学校に関してはこの家族への支援に関して協力的であり、校長を中心にして取り組んでいる。
また、虐待防止ネットワークも積極的に活動しており社会資源として活用できる。子育て関連事業としては、育児支援家庭訪問事業や地域子育て支援センター事業などがある

## 子どもの心身状況など　（心身の健康状況、自己、関係性、コミュニケーション、情緒的発達、認知的発達、問題解決能力、日常生活動作能力、性格）

本児は、望まれずに生まれてくるが、妹が生まれてくるまでの3歳までは両親の適切なかかわりによって育てられている。身体的には痩せているものの発育的には問題ない。大きな病気をしたことはない。但しアレルギー体質であり、卵や乳製品へのアレルギー症状が見られる。現在思春期スパートが始まっている。運動が好きで特に野球など球技を得意にしている。万引きなど反社会的行動傾向がみられるものの、頻度が少なく、手口などの技術面から判断しても深度は軽・中度の段階である。ただ、贖罪意識が低く相手に対して心からの謝罪ができない面あり。学校場面ではおとなしく口ごもってしまって自分の気持ちを表現しないことなど他者とのコミュニケーションがうまくとれないこともあってか、いじめられることが多く、孤立気味である。自殺を考えたときもあったとのこと。被虐待やいじめられた経験から、人間に対する不信感や恐怖感が強い。また、自己肯定感が低く、今の自分を好きになれないでいる。したがって、友人はいるものの少ない。だが、教師との関係においては小学校1年の担任との関係がよかったこともあり、教師に対しては比較的素直であり、自分の気持ちを表現することもある。また、妹など年下のものに対してはやさしい面もある。つまずいたり、失敗したときなどに自分をコントロールしながら考えて対処する機能は十分獲得しておあらず、自分に自信がないこともありすぐに諦めてしまう傾向にある。知的な発達に関しては年齢相応の学力を有している。基本的生活習慣であるが、身だしなみなどやや身に付いていない面もあるが、あいさつなどはしっかりできる。

## 総合所見

母親による本児への虐待は、妹が生まれた直後から始まっており、小学校入学後は一時減少したものの、本児の行動上の問題が出始めた頃から再び始まり、本児の行動上の問題が増えるにつれ、エスカレートしていった。虐待による本児への影響であるが、人に対する不信感が強い、自己肯定感・自尊感情が低い、他者とのコミュニケーションが上手にとれないなどの状態となって表れている。母親の虐待の原因であるが、基本的な養育技術が身に付いていないために、育児ストレスや育児負担感が大きく、実父を含め周辺からの支援も得られないような状況から生じたものと考えられる。また、第二子の出生に伴う本児の退行現象を母親が受け止めることができなかったことで、母親の本児に対する不適なかかわりが始まった可能性があることから、本児の退行状態に対する母親の認知や感情などの心理的状態を分析、理解していく必要がある。本児への虐待の経緯をみると、父親からの協力が得られないような状況が影響を及ぼしており、また、父親と本児との関係もいいことから、父親のあり方が1つのポイントであり、勤務条件や養育参加などについて検討していくことが重要。本児については、プラス面を活用、強化しつつ、指摘した問題性の改善・回復を図ることが重要。母親に対しては、援助者を派遣しストレスの軽減などを図りつつ、虐待行為への認識を深めながら治療意欲を促進し、養育技術や抑制技術を体得していく支援が重要。また、本家族を支えていく地域支援ネットワークを形成し支援していくことが必要と思われる。

別紙8

# 自立支援計画票

施設名　　作成者名

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| フリカナ<br>子ども氏名 | | 性別 | 男<br>女 | 生年月日 | 年　月　日<br>（　　歳） |
| 保護者氏名 | | 続柄 | | 作成年月日 | 年　月　日 |
| 主たる問題 | | | | | |

| | |
|---|---|
| 本人の意向 | |
| 保護者の意向 | |
| 市町村・保育所・学校・職場などの意見 | |
| 児童相談所との協議内容 | |

【支援方針】

第○回　支援計画の策定及び評価　　次期検討時期：　年　月

## 子ども本人

【長期目標】

| | 支援上の課題 | 支援目標 | 支援内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標（優先的重点的課題）】 | | | | 年　月　日<br>年　月　日<br>年　月　日<br>年　月　日 |

## 家庭（養育者・家族）

【長期目標】

| | 支援上の課題 | 支援目標 | 支援内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標（優先的重点的課題）】 | | | | 年　月　日<br>年　月　日<br>年　月　日 |

## 地域（保育所・学校等）

【長期目標】

| | 支援上の課題 | 支援目標 | 支援内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標】 | | | | 年　月　日<br>年　月　日 |

## 総合

【長期目標】

| | 支援上の課題 | 支援目標 | 支援内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標】 | | | | 年　月　日<br>年　月　日 |

【特記事項】

# 自立支援計画票（記入例）

施設名　□□児童養護施設　　作成者名

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| フリカナ<br>子ども氏名 | ミライ　コウタ<br>未　来　幸　太 | 性別 | ○男<br>女 | 生年月日 | ○年　○月　○日（11歳） |
| 保護者氏名 | ミライ　リョウ<br>未　来　良 | 続柄 | 実　父 | 作成年月日 | ×年　×月　×日 |
| 主たる問題 | 被虐待経験によるトラウマ・行動上の問題 | | | | |
| 本人の意向 | 母が自分の間違いを認め、謝りたいといっていると聞いて、母に対する嫌な気持ちはもっているが、確かめてみてもいいという気持ちもある。 早く家庭復帰をし、出身学校に通いたい。 | | | | |
| 保護者の意向 | 母親としては、自分のこれまで行ってきた言動に対し、不適切なものであったことを認識し、改善しようと意欲がでてきており、息子に謝り、関係の回復・改善を臨んでいる。 | | | | |
| 市町村・学校・保育所・職場などの意見 | 出身学校としては、定期的な訪問などにより、家庭を含めて支援をしていきたい。 | | | | |
| 児童相談所との協議内容 | 入所後の経過（3ヶ月間）をみると、本児も施設生活に適応し始めており、自分の問題性についても認識し、改善しようと取り組んでいる。母親も、児相の援助活動を積極的に受け入れ取り組んでおり、少しずつではあるが改善がみられるため、通信などを活用しつつ親子関係の調整を図る。 | | | | |

【支援方針】 本児の行動上の問題の改善及びトラウマからの回復を図ると共に、父親の養育参加などによる母親の養育ストレスを軽減しつつ養育方法について体得できるよう指導を行い、その上で家族の再統合を図る。

第○回　支援計画の策定及び評価　　次期検討時期：　△年　△月

## 子ども本人

【長期目標】　盗みなどの問題性の改善及びトラウマからの回復

| | 支援上の課題 | 支援目標 | 支援内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標（優先的重点的課題）】 | 被虐待体験やいじめられ体験により、人間に対する不信感や恐怖感が強い。 | 職員等との関係性を深め、人間に対する信頼感の獲得をめざす。トラウマ性の体験に起因する不信感や恐怖感の軽減を図る。 | 定期的に職員と一緒に取り組む作業などをつくり、関係性の構築を図る．心理療法における虐待体験の修正。 | 年　月　日 |
| | 自己イメージが低く、コミュニケーションがうまくとれず、対人ストレスが蓄積すると、行動上の問題を起こす | 得意なスポーツ活動などを通して自己肯定感を育む。また、行動上の問題に至った心理的な状態の理解を促す。 | 少年野球チームの主力選手として活動する場を設ける。問題の発生時には認知や感情の丁寧な振り返りをする。 | 年　月　日 |
| | | 他児に対して表現する機会を与え、対人コミュニケーション機能を高める。 | グループ場面を活用し、声かけなど最上級生として他児への働きかけなどに取り組ませる。 | 年　月　日 |
| | 自分がどのような状況になると、行動上の問題が発生するのか、その力動が十分に認識できていない | 自分の行動上の問題の発生経過について、認知や感情などの理解を深める。また、虐待経験との関連を理解する。 | 施設内での行動上の問題の発生場面状況について考えられるよう、丁寧にサポートする。 | 年　月　日 |

## 家庭（養育者・家族）

【長期目標】 母親と本児との関係性の改善を図ると共に、父親、母親との協働による養育機能の再生・強化を図る。また、母親が本児との関係でどのような心理状態になり、それが虐待の開始，及び悪化にどのように結びついたのかを理解できるようにする。

| | 支援上の課題 | 支援目標 | 支援内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標（優先的重点的課題）】 | 母親の虐待行為に対する認識は深まりつつあるが、抑制技術を体得できていない。本児に対する認知や感情について十分に認識できていない． | 自分の行動が子どもに与える(与えた)影響について理解し、虐待行為を回避・抑制のための技術を獲得する。本児の成育歴を振り返りながら，そのときの心理状態を理解する．そうした心理と虐待との関連を認識する． | 児童相談所における個人面接の実施（月2回程度） | 年　月　日 |
| | 思春期の児童への養育技術（ペアレンティング）が十分に身に付いていない | 思春期児童に対する養育技術を獲得する。 | これまで継続してきたペアレンティング教室への参加（隔週） | 年　月　日 |
| | 父親の役割が重要であるが、指示させたことは行うもののその意識は十分ではない | キーパーソンとしての自覚を持たせ、家族調整や養育への参加意欲を高める。母親の心理状態に対する理解を深め，母親への心理的なサポーターとしての役割を取ることができる。 | 週末には可能な限り帰宅し、本人への面会や家庭における養育支援を行う。児童相談所での個人及び夫婦面接（月1回程度）。 | 年　月　日 |

## 地域（保育所・学校等）

【長期目標】 定期的かつ必要に応じて支援できるネットワークの形成（学校、教育委員会、主任児童委員、訪問支援員、警察、民間団体、活動サークルなど）

| | 支援上の課題 | 支援目標 | 支援内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標】 | サークルなどへの参加はするようになるものの、近所とのつきあいなどはなかなかできず、孤立ぎみ | ネットワークによる支援により、つきあう範囲の拡充を図る | 主任児童委員が開催しているスポーツサークルや学校のPTA活動への参加による地域との関係づくり | 年　月　日 |
| | 学校との関係性が希薄になりつつある。 | 出身学校の担任などと本人との関係性を維持、強化する。 | 定期的な通信や面会などにより、交流を図る | 年　月　日 |

## 総合

【長期目標】　地域からのフォローアップが得られる体制のもとでの家族再統合もしくは家族機能の改善

| | 支援上の課題 | 支援目標 | 支援内容・方法 | 評価（内容・期日） |
|---|---|---|---|---|
| 【短期目標】 | 母親と本人との関係が悪く、母子関係の調整・改善が必要。再統合が可能かどうかを見極める必要あり。 | 母子関係に着目するとともに、父親・妹を含めた家族全体の調整を図る。 | 個々の達成目標を設け、適宜モニタリングしながら、その達成にむけた支援を行う。 | 年　月　日 |
| | | | 通信などを活用した本人と母親との関係調整を図る | 年　月　日 |

【特記事項】　通信については開始する。面会については通信の状況をみつつ判断する。